

第6学年 音楽科学習指導案

場 所 3階音楽室

児 童 男19名 女18名 計37名

指 導 者 木 村 純 子

1 題材名

いろいろな音のひびきを味わおう 〈A表現・音楽づくり B鑑賞〉

2 児童について

児童は、これまで「豊かな歌声をひびかせよう」という題材の学習を通して、初めて聴いた曲に対して抱いた思いや願いをもとに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、思いや意図をもって表現活動に取り組むようになってきた。また、歌唱の学習で友達と交流しながら様々な表現を考えることができるようになってきた。しかし、深まった考えを生かしながら楽しんで活動したり、次の学習につなげたりしていくことに課題がある。そこで、言葉で理解したことを音や音楽で伝え、音楽表現をさらに高めていく必要がある。また、表現が曲全体のよさとどのように結び付いているのか考えることについて見通しをもつことが効果的であると考えている。

3 題材の指導構想

(1) 題材について

本題材は、新学習指導要領A表現(3)音楽づくり、B鑑賞に関わる内容である。鑑賞の曲として、管弦楽組曲「惑星」から「木星」(グスターヴ ホルスト作曲)を取り扱う。また、表現では、「仕組みをいかしてオリジナルの『木星』をつくろう」と題して、音楽づくりを行う。

本題材は、5・6年生で音の響きについて系統立てて学習していくものである。5年生では、弦楽合奏と吹奏楽を聴き味わい、リズムアンサンブルづくりを行うことで、役割の違う様々な楽器の音が重なり合う豊かな響きを味わう学習を行なった。6年生では、オーケストラで演奏されている「木星」を取り上げる。この曲は、いくつかの主な旋律が反復しながら曲想に合わせて変化し、仕組みが捉えやすく構成されていること、また、コマーシャルや映画などの様々な場面で曲が使われており、親しみやすく魅力的な楽曲であることから、児童が、音楽の特徴を口ずさみながら交流し、豊かな響きのよさを聴き深めていくことができる。また、それぞれの特徴を理解した後に、全体を聴くことで曲がもつ魅力にも迫りやすい。そして、鑑賞の学習後、「木星」で聴き取った音楽の構造や楽器のパートの役割を生かし、友達の考えを取り入れながら楽しんで音楽づくりをすることで、音楽の価値の実感を促すことにつなげやすい。

以上のことから、本題材の学習では、次の2つのことについて留意する。1つ目は、鑑賞領域で曲全体のよさを捉え、曲想とその変化と音楽の構造との関わりについて理解する際に、その豊かさについて言葉だけではなく音や音楽で特徴を伝え合う活動を取り入れる。また、音楽づくりでは、鑑賞領域で学習したことを生かして、音の重なり合う仕組みを使って曲をつくる際に、友達といろいろな旋律の重なりを音を出して試しながら楽しんで活動することである。2つ目は、理解した曲の特徴を手掛かりに曲全体がどのようになっているか見通しをもって聴いたり音楽づくりをしたりできるようにすることである。

(2) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

〈育てたい資質・能力〉	〈深い学びの姿〉
(A表現・音楽づくり)	・ 音楽を形づくっている要素をもとに、それらの働きが生み出す豊かな響きの美しさを味わいながらオーケストラの演奏を鑑賞したり楽しんで音楽づくりをしたりする姿
・ いろいろな音の響きやそれらの組み合わせ・音やフレーズのつなげ方の特徴を理解すること	【知・技】
・ 即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する・音楽の仕組みを用いて音楽をつくること	【知・技】
・ 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること	【思・判・表】
・ 全体のまとまりを意識した音楽をつくるための思いや意図をもつこと	【思・判・表】
・ 進んで歌う活動に取り組み、協働して歌う活動をする楽しさを味わうこと	【学】
(B鑑賞)	
・ 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと	【思・判・表】
・ 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりを理解すること	【知】
(共通事項)	
・ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること	【知】
・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること (音色・旋律・強弱・音の重なり・反復・変化・音楽の縦と横との関係)	【思・判・表】

視点1 深い学びを実現する題材構成

- 題材の中で働かせる見方・考え方（本題材に関わる音楽を形づくっている要素である音色・旋律・強弱・音の重なり・反復・変化・音楽の縦と横との関係やそれらの働き、自己のイメージや感情、生活や文化との関連）を明らかにし、指導計画に位置付けることで、いろいろな音の響きを味わうことについての深まりを実感できるようにしていく。
- 学びの積み重ねをグラフのように記録ノートにまとめていくことで、今どの段階にいるのか、また、新しい学びがどこに位置付くのか、思考の流れを確かめたり前の学びを生かしたりできるようにする。
- 単位時間の終わりなどに生活の中で学んだことが生かされている場面を記載するようにし、関連する場面で教師が取り上げ、そのことについて友達から考えを聞き、生活の中で生きている音楽について交流し、学びを深められるようにする。

視点2 問題解決的な学習展開の充実

(1) 主体的な学びを促す手立て

- ・ 始めに鑑賞領域の「木星」の学習を行い、三部形式の中心部分から聴かせることで、曲の構造の特徴から役割の異なるパートの様々な音が重なり合う響きの美しさを感じ取り、いろいろな音の響きを味わっていくという課題を把握できるようにする。(主①)
- ・ 友達の考えを聞いたり表現の仕方をまねしたりすることで、自分の考えに自信をもったり、出し合った考えを板書やシートに整理するなど視覚的にまとめ理解を深めたりすることで、意欲的に活動できるようにする。(主②)
- ・ 振り返りの際に、単位時間に関わった共通事項等の言葉を使いながら学んだことを書くように視点を与えることで、学びが次につながるようにする。(主③)

(2) 対話的な学びを促す手立て

- ・ いろいろな音の響きを感じ取っていくために友達と交流する際に、言葉だけではなく、音や音楽で考えを伝え合い、実感を伴った学びへとつなげていけるようにする。(対①)
- ・ グループ活動で友達と交流した考えを全体場で聞き合い、考えを整理できるようにする。(対②)
- ・ 鑑賞の音楽作品を通じて作曲者の思いに触れ、自分がその音楽に向き合うことで、さらに音楽への思いを広げていけるようにする。(対③)

4 題材の指導計画

(1) 目標

- ・ パートの役割や楽器の音色の特徴を知り、音の重なりや全体の響きを味わって演奏したり、楽器の特徴から生まれる響きの美しさを味わって聴いたりしている。【知・技】
- ・ 音楽の仕組みを生かして音楽をつくるための思いや意図をもっている。【思・判・表】
- ・ パートの役割、楽器の音色、音の重なりや響きのよさを感じ取りながら楽しんで活動している。【態】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 鑑賞の学習から得た発想をもとに、旋律づくりをしている。	① 曲想とその変化などの特徴と楽器の音色、旋律、強弱、音の重なり、変化、反復、音楽の縦と横の関係の関わり合いから感じ取ったことを言葉で表すなどして、曲の特徴やオーケストラの豊かな響きのよさを味わって聴いている。	① 楽器の響きや音楽の仕組みに興味・関心を持ち、曲を聴く活動に主体的に取り組もうとしている。
② 音楽の仕組みに関する、音色、旋律、強弱、音の重なり、反復、変化、音楽の縦と横の関係の特徴を理解している。	② 音色や重なりを聴き取り、その組み合わせによる響きのよさや面白さを感じ取りながら、反復、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてアンサンブルをつくるための思いや意図をもっている。	② 鑑賞から得た発想をもとに旋律づくりをして楽しみ、まとまりを意識した音楽づくりの学習活動に主体的に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (4時間)

段階	時	主な学習活動	手立て	評価規準 (評価方法)
問題の把握	1	◎ 「木星」の旋律の反復や変化、音色の特徴などから曲の構造に気付いて聴く。 ・ イの部分聴いて、主な旋律が音色、強弱、音の重なりを変化させながら繰り返し演奏されていることに気付く。 ・ イの部分が全体の中でどのような位置付けになっているのかを確かめながら全曲を聴き、三部形式の構成になっていることに気付く。	主①	◇ 楽器の響きや音楽の仕組みに興味・関心をもち、曲を聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 【態①→発言、活動の様子、ノート】
いろいろな音のひびきを味わおう				
問題の追究	2	◎ 「木星」の曲想の移り変わり、オーケストラの豊かな響きが変化していくよさや面白さ、美しさを味わって聴く。 ・ 全体を通して聴きながら、もう一度構造を確認する。 ・ 1回目のアと2回目のアの部分の変化について話し合う。 ・ アとイの曲想の移り変わりによって「木星」が構成されていることで、曲が魅力的になっていることについて話し合う。 ・ 紹介カードに曲の魅力をまとめる。	主① 対② 対③	◇ 曲想とその変化などの特徴、楽器の音色、強弱、旋律、音の重なり、旋律の反復や変化、音楽の縦と横の関係の関わり合いから、感じ取ったことを言葉で表すなどして、曲の特徴やオーケストラの響きのよさを味わって聴いている。 【思・判・表①→紹介カード】
まとめ	3	◎ 「木星」の鑑賞で学んだ音楽の仕組みを意識しながら、短いまとまりのある旋律をつくり、演奏して親しむ。 ・ 鍵盤ハーモニカで様々な拍子で旋律をつくる。 ・ 全員やグループで旋律をつなげ楽しむ。 ・ 4分の3拍子で1人1小節旋律をつくり、グループでつなげる。	主②	◇ 鑑賞から得た発想をもとに、旋律づくりをして楽しみ、まとまりを意識した音楽づくりに主体的に取り組んでいる。 【態②→発表の様子】 ◇ 鑑賞の学習から得た発想をもとに、旋律づくりをしている。 【知・技①→活動の様子】
本時	4	◎ グループで旋律の仕組みを組み合わせアンサンブルをつくる。 ・ 「木星」を聴き、曲の仕組みを振り返る。 ・ アンサンブルの約束を確かめる。 ・ アンサンブルをグループで考え練習する。 ・ グループでつくったアンサンブルをつなげて演奏し、聴き合う。	主③ 対①	◇ 音色や重なりを聴き取り、その組み合わせによる響きのよさや面白さを感じ取りながら、反復、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてアンサンブルをつくるための思いや意図をもっている。 【思・判・表②→活動の様子】 ◇ 音楽の仕組みに関する、音色、旋律、強弱、音の重なり、反復、変化、音楽の縦と横の関係の特徴を理解している。 【知・技②→活動の様子】

5本時の指導計画

(1) 目標

- ・ アンサンブルをつくるための音楽の仕組みを理解している。【知・技】
- ・ 主な旋律を繰り返しながら音楽の仕組みを生かしたアンサンブルをすることを通して、まとまりを意識した音楽をつくることについて思いや意図をもっている。【思・判・表】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
・ 主な旋律を繰り返しながら、思いや意図をもって音楽を支える低音や飾りの旋律を付けたたり、旋律のまとまりを意識して音の重なりや縦と横の関係を考えたりしている。	・ 友達の考えを聞きながら、一緒に演奏したりまねをしたりして、アンサンブルに参加するようにする。
・ アンサンブルをつくるための音楽の仕組みを理解している。	・ 友達がつくった旋律をまねしたり音の数を限定したりなどして演奏してみることで仕組みを理解できるようにする。

(3) 展開

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料等
導入 (8分)	<p>1 前時の旋律づくりを振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>(1) 旋律遊びをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>(約束)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソ～ソまでの白鍵 ・3拍子 ・順次進行 </div> <p>(2) 自分たちの旋律を確かめる。</p> <p>(3) 「木星」を聴き、旋律の反復による変化を聴き取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>音楽の仕組みを生かしてオリジナルの「木星」をつくろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3拍子のリズムに合わせて自由に旋律づくりをすることでウォーミングアップをする。 ・ 「木星」を聴くことで、反復による変化(音の重なり, 強弱,)を聴き取り, 自分たちに生かせようだという思いをもつようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「木星」CD
展開 (27分)	<p>2 アンサンブルの約束を知る。</p> <p>(1) 支える低音を確認する。</p> <p>(2) 飾りの音を確認する。</p> <p>(3) 旋律の進行の仕方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>(約束)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し→4回 最後」・・・ ・ 役割 旋律2人 低音1人 飾り1人 ・ 低音→基本ソ </div> <p>3 アンサンブルをつくる。</p> <p>(1) グループで考えを出し合いながら考える。</p> <p>4 発表する。</p> <p>5 気付いたことを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かで低音と旋律の重なり, 飾りの音と旋律の重なりについて演奏してみることで, 役割と仕組みを理解できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ いろいろな音の響きを感じ取っていくために友達と交流する際に, 言葉だけでなく, 音や音楽で考えを伝え合い, 実感を伴った学びへとつなげていく。 (対)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「どんどん盛り上がっていく感じ」「静かに終わる感じ」など, 表現したいイメージをもちながらつくるように促す。 <p>◇ アンサンブルをつくるための音楽の仕組みを理解している。</p> <p style="text-align: right;">【知・技 グループでの活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵盤ハーモニカ ・ 鈴 ・ タンブリン ・ トライアングル ・ マラカス
まとめ (10分)	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>繰り返す時に低音の音を少しずつ増やしたり<u>主な旋律</u>をたくさん重ねたりして, <u>強弱</u>を付けたら盛り上がっていく様子が表現できた。</p> <p>友達の発表を聞いて, 飾りの音をたくさん鳴らしたり鳴らすのをやめたりする工夫が面白いと思った。</p> <p>作曲者は, 様々な工夫をして自分の思いを表現しているのだなと感じた。</p> <p>他の曲もいろいろな音に気を付けながら聴いてみたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学び, 友達の考えの良さ, また, 本題材での学びも書くように視点を与え, まとめるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>振り返りの際に, 本時に関わった共通事項等の言葉を使いながら学んだことを書くように視点を与え, 学びが次につながるようにする。 (主)</p> </div> <p>◇ 主な旋律を繰り返しながら音楽の仕組みを生かしたアンサンブルをすることを通して, まとまりを意識した音楽をつくることについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">【思・表・判 発言・ノート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート